

稲作情報 No.5

発行日: 令和7年6月27日
発行: 仙北地域振興局農林部農業振興普及課

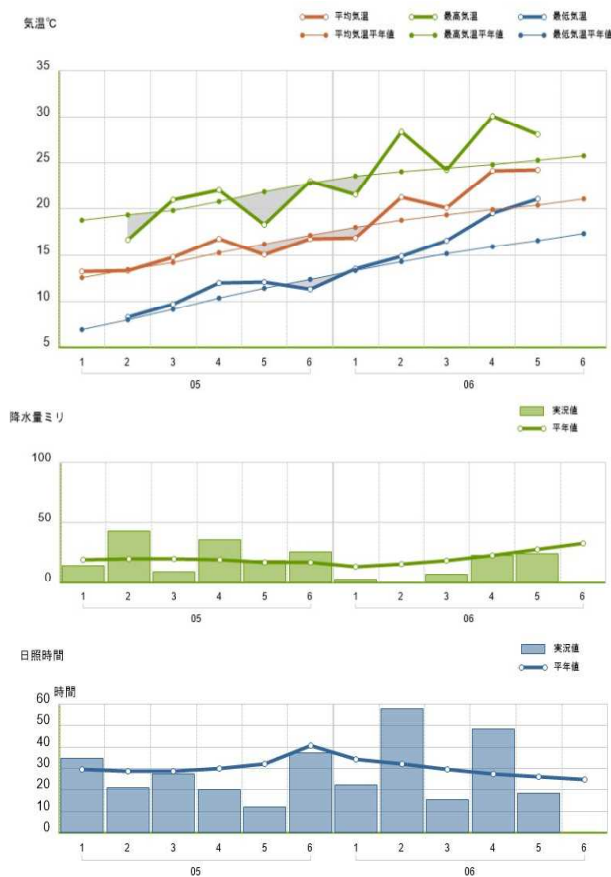
～茎数はほ場間差が大きい～

生育状況にあわせた水管理で茎数を確保しましょう！

1 気象経過と今後の気象予報

これまでの気象経過(アメダス大曲)

図1 半月ごとの気象経過(秋田県農業気象システムより引用)



向こう1か月の気象予報(6/28～7/27)

- ・仙台管区気象台より令和7年6月26日に発表された1か月予報によると、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・平均気温は高い確率が80%で、週別の気温は1週目(6/28～7/4)および2週目(7/5～7/11)は高い確率が80%、3～4週目(7/12～7/25)は高い確率が60%です。
- ・降水量は平年並または少ない確率ともに40%です。

図2 東北地方 1か月予報(出典: 気象庁HP)

気温、降水量、日照時間の出現確率(%)			
気温	東北地方	向こう1か月 06/28～07/27	10 10 80
		1週目 06/28～07/04	10 10 80
		2週目 07/05～07/11	10 10 80
		3～4週目 07/12～07/25	10 30 60
降水量	東北地方	向こう1か月 06/28～07/27	40 40 20
日照時間	東北地方	向こう1か月 06/28～07/27	20 30 50

2 生育概況

6月25日の定点調査結果(あきたこまち、10地点平均)は、草丈は41.2cmで平年より長く(平年比117%)、茎数は372本/㎡(平年比91%)で少なく、葉数は8.7葉(平年差+0.1葉)で平年並でした。葉色(SPAD値)は45.4で平年よりやや濃く(平年差+1.4)になりました。

6月上～中旬の気温は高い～かなり高く経過し、日照時間は平年並～多く経過したことが

ら、遅れていた分げつ発生が促進されるなど生育は回復傾向となりましたが、依然として茎数は少ない状況です。また、田植えが遅かった地点や栽植密度が低い地点で茎数が少ない傾向となっており、茎数の確保状況はほ場間差が大きい状況です。

3 当面の技術対策

1. 有効茎決定期(6月下旬)の水管理

本年は田植え時期や栽植密度の差によって、茎数はほ場間差が大きくなっています。ほ場ごとに生育状況を確認して、水管理方法や中干しの開始時期を判断しましょう。

- ①県南部のあきたこまち(目標収量570kg/10a、中苗)の目標穂数は415本/m²(70株/坪植えの場合は1株当たりで約20本)です。有効茎決定期(6月25日頃、8.5葉期頃が目安)が目標茎数(目標穂数と同程度の茎数)を確保する時期ですが、目標茎数を確保できていないほ場が散見されます。茎数が不足しているほ場では、穂数不足による減収が懸念されることから、有効茎を早期に確保するための浅水管理を徹底してください。
- ②**目標茎数を確保できていないほ場**では、浅水管理で水温と地温を高め、分げつの発生を促進してください。茎数が十分に確保できない場合は中干しの開始を遅らせるとともに、強い中干しは行わないようにしてください。
- ③**目標茎数を確保したほ場**では、中干しにより分げつの発生を抑制します。中干しの期間は、7～10日程度を目安とし、田面に亀裂が1～2cm入り、足跡が付く程度とします。中干しの前に深水管理をする場合は、8.5葉期以降に1週間程度を水深15cmを保ち、その後は中干しに入ります。
- ④溝切りはその後の水管理や秋作業の効率化につながるため、中干しに合わせて積極的に実施しましょう。また、入排水をスムーズにするため溝の交差部分と水尻は必ず繋ぎましょう。
- ⑤幼穂形成期(7月15日頃)に土壤水分が不足すると1穂粒数の減少を招くため、中干しは幼穂形成期前には必ず終了してください。また、低温が予想される場合には幼穂形成期に水深10cm程度の深水にすることで幼穂を保護します。
- ⑥中干し後は間断かん水を基本としますが、用水が不足している地域では溝切りの溝を活用しながらほ場内に水分を回すなどして、効率的な入水を心がけましょう。また、減数分裂期頃は低温に弱い生育ステージとなるため、気象情報に留意しながら、低温時は深水(水深15cm以上)にして保温してください。

2. カドミウム汚染米対策として湛水管理を徹底しましょう。

- ・カドミウム濃度が0.4ppmを超える米を流通させると「食品衛生法違反」となります。
- ・カドミウム汚染米が発生する恐れがある地域では、「**あきたこまちR**」以外の品種ではこれまでと同様に**7月中旬～8月下旬(7月15日～8月25日頃)までの出穂前3週間、出穂後3週間の計6週間は、湛水管理を必ず実施しましょう。**
- ・J-クレジットの「中干し延長」に取り組む場合は、カドミウム汚染米発生防止のため、「あきたこまちR」の作付けをしてください。

3. 葉いもちの発生に注意。

BLASTAM法による感染好適判定では、アメダス大曲地点で6月24日に感染に好適な気象が観測されました。感染苗のほ場への持ち込みや発病している余り苗等の感染源が付近にある場合は、発病に注意が必要です。

梅雨に入り感染に好適な気象が続くと葉いもちの多発につながることから、ほ場巡回により本田における発病状況を確認し、早期発見に努めてください。

○これまでに葉いもち防除剤を使用していない場合

直ちにオリゼメート粒剤を10a当たり2kg、またはルーチン粒剤を10a当たり1kgを散布します。

○余り苗や感染苗の持ち込みからの伝染を確認した場合

直ちにブラシン剤またはノンブラス剤の茎葉散布を行います。その後、必要に応じてビーム剤を追加散布します。

ラブサイド・ブラシン等に含まれるフサライド剤、ビーム・ノンブラス等に含まれるトリシクラゾール剤の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内です。総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

4. 斑点米カメムシ類の繁殖を抑える雑草管理

秋田県病害虫防除所による発生予報第3号(7月予報)では、**斑点米カメムシ類(第2世代)の発生時期はやや早く、発生量はやや少ない予報です。**

しかし、主要加害種であるアカスジカスミカメは、ノビエやホタルイ等のカヤツリグサ科雑草の穂に誘引され増殖するため注意が必要です。初・中期一発処理剤の効果が十分に得られず、水田内に残草があるほ場が散見されますので、草種や生育程度に合わせた中・後期除草剤を散布し、水田内の雑草に穂をつけさせない管理を徹底しましょう。

また、草刈りは出穂の15～10日前までに、農道や畦畔だけでなく休耕田や水田周辺雑草地等の繁殖地を対象に、できるだけ地域で一斉に行い、密度低下を図りましょう。

5. 熱中症に注意しましょう。

本格的に梅雨に突入し、高温多湿の日が続くことが予想されます。同じ気温でも湿度の高い日の方が熱中症になりやすいとされていますので、こまめな水分・塩分補給を心掛け、熱中症を予防しましょう。

～秋田米栽培情報発信LINE始めました！～

水稻栽培に関する情報を発信しています。

秋田県農林水産部水田総合利用課

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/suiden>



友達追加は
こちらから